

2023年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業

外国人介護人材キャリア育成手法の現場実践による効果性に関する調査研究事業

シンポジウム

『外国人介護職といっしょに、

わかりあう・学び合うプログラム どう使う??』

2024.3.16. 老健事業公開シンポジウム
一般社団法人 グローバルカイゴ検定協会
理事 坪 茂典



一般社団法人
グローバルカイゴ検定協会
Global "KAIGO" license Association

厚生労働省 令和5年度 老人保健健康増進等事業
「外国人介護人材キャリア育成手法の現場実践による効果性に関する調査研究事業」

外国人介護人材 といっしょに わかりあう 学び合う プログラム

導入ガイド

一般社団法人 グロー

外国人介護人材 といっしょに わかりあう 学び合う プログラム

読本

一般社団法人 グローバルカイゴ検定協会

令和5(2023)年度 老人保健健康増進等事業

外国人介護人材キャリア育成手法の
現場実践による効果性に関する調査研究事業・報告書

令和6(2024)年3月

一般社団法人 グローバルカイゴ検定協会



一般社団法人
グローバルカイゴ検定協会
Global "KAIGO" license Association

A1 本ガイドの構成



A2 本ガイドの位置づけ

- 本ガイドは、外国人介護職員（学生）が実践の中で知識・スキルを向上させるための事業所・養成校が協働したOJTプログラムの進め方を解説するものです。
- 令和4・5年度の老人保健健康増進等事業（※）の成果に基づき、外国人介護職員の育成に活用する手引書として編纂されました。
- 本ガイドは、既存の各種教育プログラム（学校のカリキュラムや施設内の育成プログラム）の教材と併用することができます。

相互作用で 共進化できます。



- ※
- 老人保健健康増進等事業（令和4年度）「介護現場での社会実装化を見据えた外国人介護人材キャリア育成に資する有効な手法確立のための調査研究事業」
 - 老人保健健康増進等事業（令和5年度）「外国人介護人材キャリア育成手法の現場実践による効果性に関する調査研究事業」



A3 学びを深める実践と理論の関係

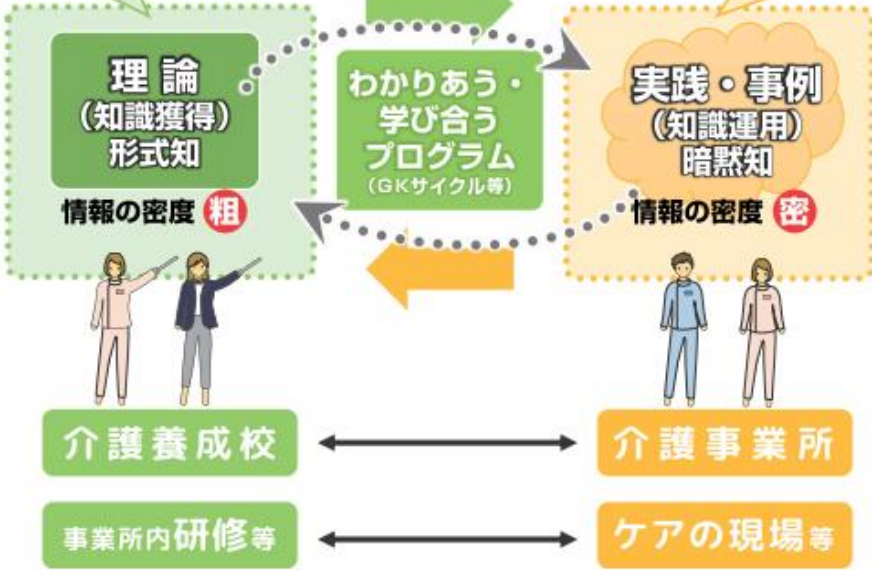
地域・介護養成校と事業所の連携の重要性

- 学んだことを、どのような「解釈を基にして事例で運用したのか」が重要です。
- 同じ理論であっても、個々の事例に応じて、知識スキルを調整して運用することが必要です。
- 事例の場面で「解釈をどのようにしたか」「結果としての適用のされ方」を明確化することで、知識獲得が促進されます。

「知識獲得」と「知識運用」を繰り返すことで、知識スキルは磨かれます。

個別性を省いて抽出し、概念化

個別性を解釈して理論を適用



A4 本ガイドを利用してもらいたい方

地域・介護養成校との連携による外国人介護職員育成に向けて



- 外国人介護職員を受け入れている事業所の経営者
- 外国人介護職員の受入を考えている事業所の経営者
- 外国人介護職員の育成に不安がある事業所の経営者

事業所の経営者・管理者



- 外国人介護職員を指導している指導担当者
- 外国人職員と日本人職員との協働に問題を感じている指導担当者

ケア現場リーダー
外国人介護職員の同僚



- 外国人介護職員を受け入れている現場の管理者
- 外国人介護職員の受入を考えている現場の管理者
- 外国人介護職員の育成に不安がある現場の管理者

ケア現場の管理者
ケア現場の教育担当者



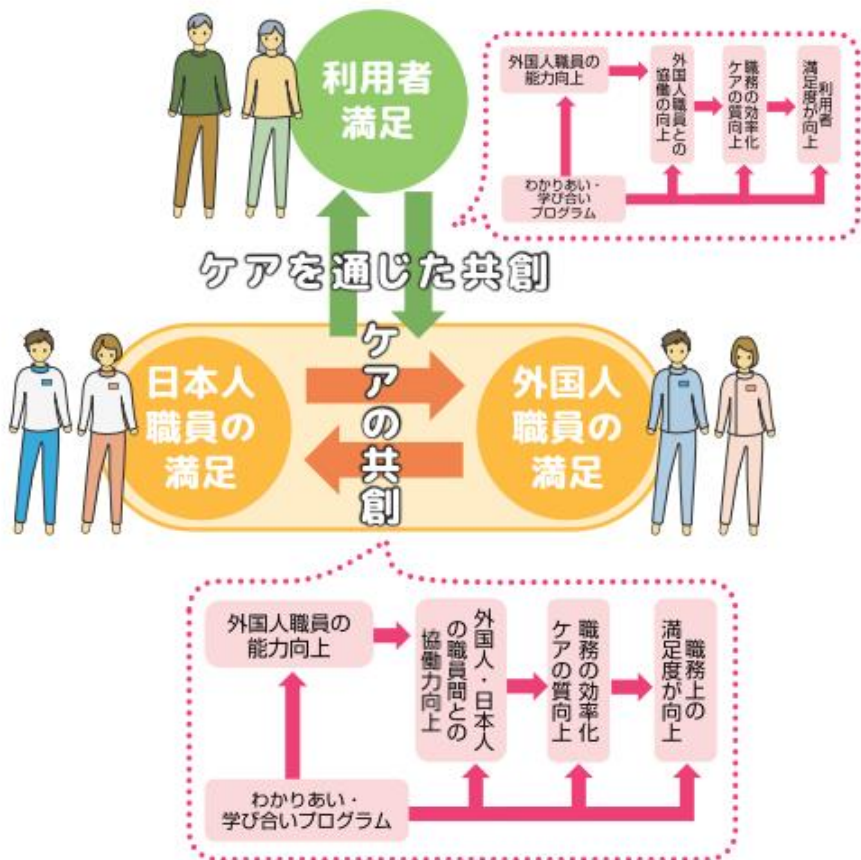
- 外国人介護職員・学生を育成している人
- 外国人介護職員・学生の育成方法に興味がある人
- 外国人介護職員・学生の、日本への定着を進めたい人

事業所の地域連携担当者
介護福祉士養成校の教員

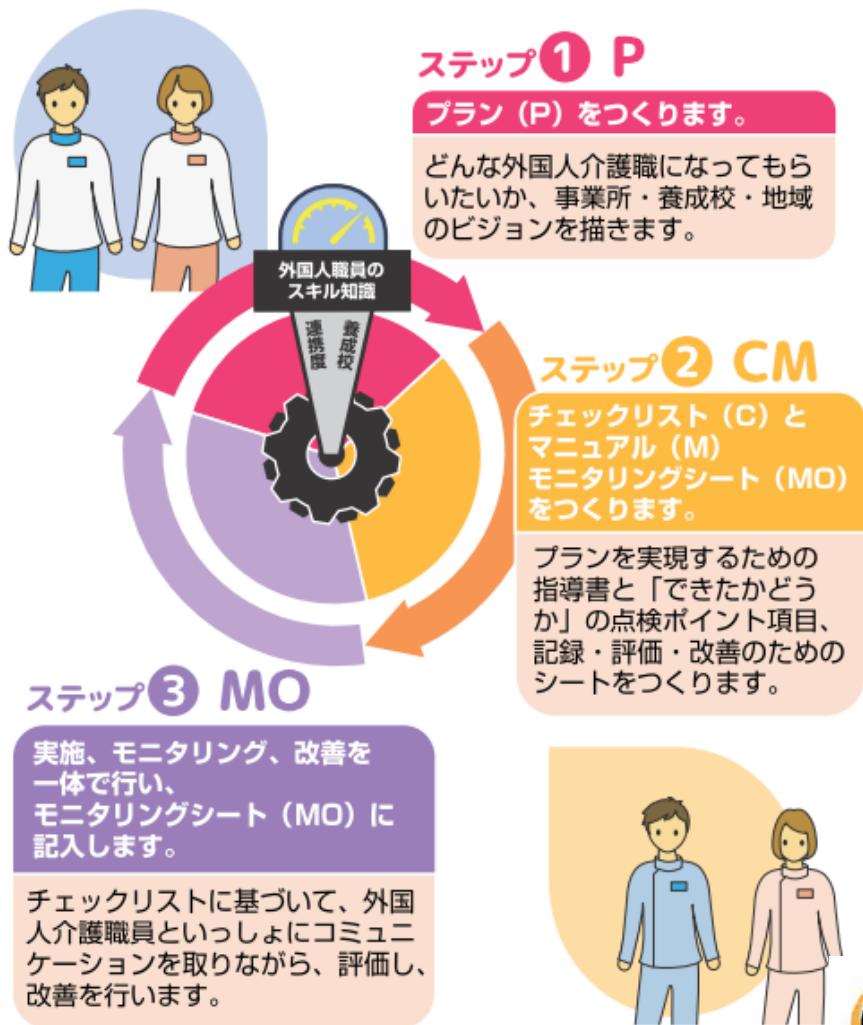


A6 育成の基本① 全員満足の視点

わかりあう・学び合うプログラムの考え方の前提には、「利用者」「日本人介護職員」「外国人介護職員」の全員が満足するケアを創り出すことを目指す精神があります。



A9 GlobalKaigoサイクルとは



A10

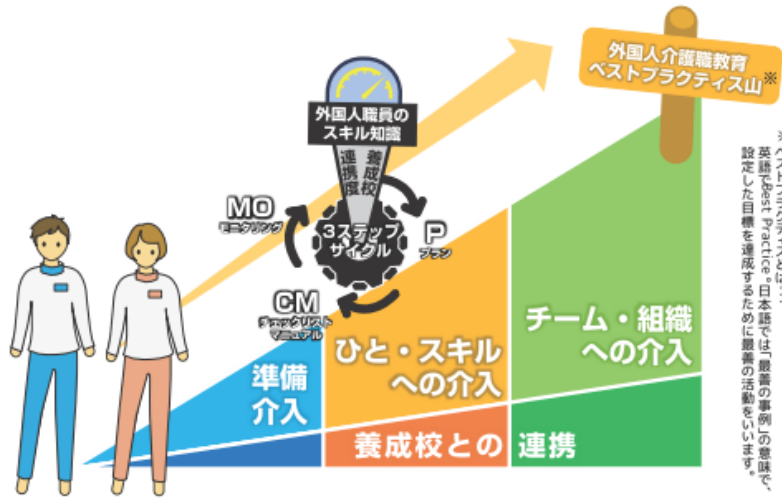
GlobalKaigoサイクルと GlobalKaigoステージの関係



GKサイクルを回せば回すほど、**外国人職員の知識スキルはアップ**します。
同時に、養成校との連携を進め、介護の質を向上させます。



GKサイクルを回せば回すほど、現場の**外国人職員への教育力が高まります**。
改善の世界観は、個人からチーム、職場全体に広がります。



※KPMGの調査によると、英語Practise Practice. 日本語では「現場の事例の整理や、設定した目標を達成するために必要な活動をいいます。」



わかりあう・学び合うプログラムのもう一方の重要な部品「GlobalKaigo ステージ」を説明するね。
GlobalKaigo ステージは、GK ステージというよ。
GK ステージは坂のような形をしているよ。
GK サイクルが回転すると、このGK ステージの坂を登ることができるんだ。

GK ステージが変われば、GK サイクルで扱うテーマも変わるんだよね。そして、坂を登るほどに、環境が変わっていくんだよね。



その通り。
GK ステージの坂は3つの部分に分かれているよ。
登り始めは「準備紹介」のステージ
坂の中頃は「ひと・スキルへの介入」のステージ
坂の上部は「チーム・組織への介入」のステージだよ。

ステージが変われば、GK ステージ上で回るGK サイクルの目標や環境も変わるんだよね。



GK サイクルが回れば回るほど、外国人介護職員・学生の知識・実践スキルが向上するんだ。
そうして、GK ステージの坂を登っていき、扱うテーマもステージごとに変わるんだ。

テーマが変われば、ひとの行動も変わるよね。
GK サイクルに参加するメンバーの行動も変わり、かかわるひとや組織も変化するわけね。



介護現場のケア品質についていえば、GK サイクルの回転が増えることで、向上するよ。
外国人介護職員や学生の知識・実践スキルが向上すれば、現場のケア品質も向上するしかけだよ。

もっと詳しく知るには

読本編の第2章「育成計画とその実践—GMS 介入による老健事業2年間の実績を踏まえて(坪)」をお読みください。



導入ガイド編 構成

読本編論稿 著者

- A1 本マニュアルの構成
- A2 本マニュアルの位置づけ
- A3 学びを深める「実践と理論」の関係～養成校と事業所の連携の重要性～
- A4 本マニュアルを利用してもらいたい方～養成校と事業所連携による外国人職員育成に向けて～
- A5 本マニュアルで目指してもらいたいこと
- A6 外国人介護職員の育成方法の基本① 全員満足の視点
- A7 外国人介護職員の育成方法の基本② わかりあう・学び合うという共創の視点
- A8 外国人介護職員の育成方法の基本③ つながる・つらなる視点
- A9 GlobalKaigoサイクル
- A10 GlobalKaigoサイクルとGlobalKaigoステージの関係
- A11 GKサイクルのしくみ～外国人職員に知識スキルが貯まり、関係者と連携が密になる～
- B1 GKサイクルを回す準備をする
- B2 ステップ ①-1プラン作成：テーマ選び
- B3 異文化環境で毎日努力している外国人職員・学生
- B4 ステップ ①-2プランの位置づけ
- B5 ステップ ②-1 チェックリスト作成
- B6 目標づくり「何を指すか？」
- B7 ステップ ②-2 チェックリストの注意点
- B8 ステップ ②-3 マニュアル作成
- B9 ステップ ②-4 モニタリングシート作成
- B10 ステップ ③-1 実行・チェック・改善
- B11 GlobalKaigoサイクルの特徴
- B12 言葉にできない経験から知識を生み出す
- B13 ステップ ③-2 改善の考え方
- C1 GKステージを登る
- C2 GKステージ ①準備介入
- C3 GKステージ ②ひと・スキルへの介入
- C4 GKステージ ③チーム・組織への介入

- 第1章 翁川
- 第8章 川廷
- 第2章 坪
- 第5章 小平
- 第4章 鈴木
- 第6章 平井
- 第3章 井口
- 第7章 黒田



『外国人介護職といっしょに、わかりあう・学び合うプログラム』 《導入ガイド》 《読本》 の今後・・・・

- 外国人介護人材が就労する現場に、このハンドブックがある。
そこで、外国人介護人材が育つ。
- 外国人介護人材が日本人介護職の良きパートナーとなるために、
介護の現場が変わる。その“道しるべ”となる。
- 外国人介護人材を受け入れることで、介護経営の基盤が強化される。
そのための“礎”となる。
- 外国人介護人材が『在留資格・介護』を目指せるために、
介護教育の現場と介護就労の現場をつなぐ“架け橋”となる。

すべては、この笑顔のために

